

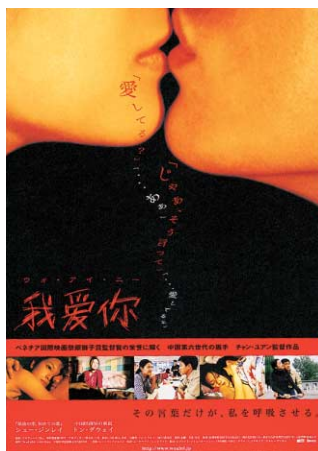
実験劇場

写真美術館の新しいあり方を工夫するとともに、館の活性化を図るための試みとして、平成12年度から将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品から、写真美術館にふさわしい映画を他に先駆けて1階ホールで上映している。

写真美術館で観る映画シリーズVol.21 「ウォ・アイ・ニー」

上映期間 平成18年3月11日(土)～4月14日(金)
12日間(平成18年4月1日以降の上映日数)

いつまでも恋人同士のような関係でいたい妻と自分の生活を大事にしたい夫。妻が「永遠の愛」をまっすぐに求めれば求めるほど、夫は「愛してる」とさえも言わなくなる。結婚生活の理想と現実、男性と女性の愛し方の違いを辛らつに、リアルに描いた作品。



写真美術館で観る映画シリーズVol.22 「緑茶」

上映期間 平成18年4月15日(土)～5月19日(金)
31日間

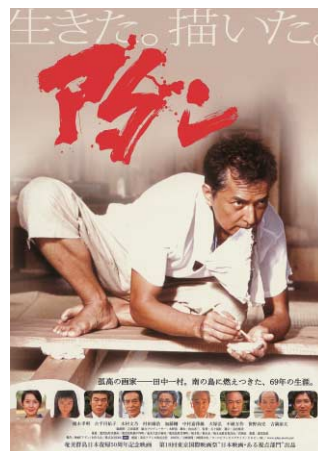
現代中国の男女をスリリングに描いた作品。撮影は独自の映像美で知られるクリストファー・ドイルが担当。主演に中国四大女優のひとりヴィッキー・チャオを配し、愛の行方を緑茶で占う魅惑的な女性を演じている。



写真美術館で観る映画シリーズVol.23 「アダン」

上映期間 平成18年5月20日(土)～6月23日(金)
30日間

絵画の天才と期待されながらも、絵を売ることは魂を売ることであり、自分の絵を見せることさえしなかった孤高の画家・田中一村。50歳で奄美大島に渡り、狂おしいまでにひかれていった奄美への感情を「アダン」という架空の少女を通じて描いて行く。死の寸前まで執念を燃やし生き抜いた69年の生涯を描いた作品。



写真美術館で観る映画シリーズVol.24

「ゴーヤーちゃんぶるー」

上映期間 平成18年6月24日(土)～7月14日(金)
18日間

不登校の中学生ひろみにとって、ネットだけが世界と繋がる窓だった。そんな折、掲示板で知り合ったメル友に会うため西表島を訪ねたひろみは、幼いころに家を出て行った母の姿を見つける。開放的な南国の島で本当の自分を取り戻していく少女の心の動きを描いた沖縄発の作品。



「女優・イザベル・ユペール特集上映会」

上映期間 平成18年7月15日(土)～7月21日(金)
6日間

展覧会にあわせ、イザベル・ユペール主演の『勝手に逃げる/人生』『ピアニスト』『いつか、きっと』『ルル』『沈黙の女・ロウフィールド館の惨劇』『サン・シール』を無料上映。



「F4-Music world」

上映期間 平成18年7月22日(土)～8月11日(金)
18日間

昨年の写真美術館における「F4フィルム・コレクション2005」に次ぐシアター上映会第2弾。本デジタル上映会では、アジアの奇跡と呼ばれる台湾カリスマユニット「F4」の音楽をテーマにした映像を一挙公開。



「アンリ・カルティエ=ブレッソン 瞬間の記憶」

上映期間 平成18年8月12日(土)～8月25日(金)
12日間

<再上映>

上映期間 平成18年9月23日(土)～9月29日(金)
6日間

ロバート・キャバラと共に、写真家集団“マグナム”を設立し、世界中の写真家に影響を与えたアンリ・カルティエ=ブレッソンは人前に顔をさらすのを嫌い、自身についてほとんど語ることはなかった。人生の最期にはじめてその半生と作品について語った 奇跡のドキュメンタリー。



写真美術館で観る映画シリーズVol.25
「パトリス・ルコントのドゴラ」

上映期間 平成18年8月26日(土)～9月22日(金)
 24日間

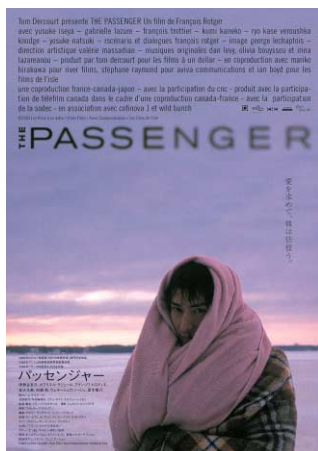
フランスの音楽家、エティエンヌ・ペルションが生み出した「DOGORA」と、溢れる生命感に圧倒される国・カンボジア。フィクションでもドキュメンタリーでもなく、あるがままの音楽と映像だけで構成された、最も普遍的な感動作。



写真美術館で観る映画シリーズVol.26
「パッセンジャー」

上映期間 平成18年10月7日(土)～10月20日(金)
 12日間

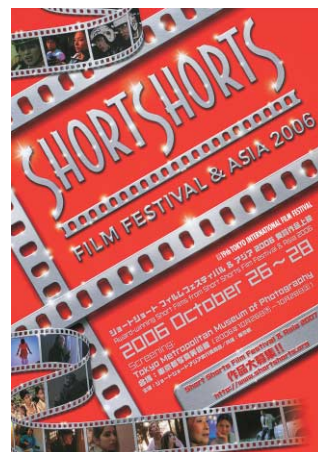
ただ純粋に愛だけを求めてカナダへと旅立ったコウジとヒロコ。そこには予想もつかない終焉が待ち構えていた。孤独を抱えながら生きる現代社会のセンチメンタルを浮き彫りにした日仏カナダ合作のロードムービー。



「ショートショートフィルムフェスティバル&アジア」

上映期間 平成18年10月26日(木)～10月29日(日)
 4日間

ショートショートフィルムフェスティバル&アジア2006の受賞作品他、特別セレクションを一挙上映。



写真美術館で観る映画シリーズVol.27
「ニキフォル 知られざる天才画家の肖像」

上映期間 平成18年11月3日(金)～12月24日(日)
 45日間

言語障害を持ち、文字の読み書きもできなかったため、意思を伝える手段として絵を描き始めたニキフォル。その才能が認められたのは死の数年前のことだった。彼が、後見人マリアンと出会い共に過ごした珠玉の日々を描いた感動の実話。



写真美術館で観る映画シリーズVol.28 「恋人たちの失われた革命」

上映期間 平成19年1月2日（火）～2月18日（日）
42日間

1968年5月、パリ。20歳になったばかりのフランソワは、兵役を拒否し、街に出て行く。そこには、彼と同じように、失うものは何もない若者たちが大勢いた。そこで彼は、リリーと出会う…。1968年の愛と混沌を描き、2005年ヴェネツィア国際映画賞銀獅子賞他、数々の映画賞に輝いたフィリップ・ガレルの最新作。



平成18年度 [第10回] 文化庁メディア芸術祭

上映期間 平成19年2月24日（土）～3月4日（日）
9日間

メディア芸術祭受賞者シンポジウム、テーマシンポジウム、イベント（アジア学生アニメコラボレーション）や作品上映など充実したホール事業が展開された。



写真美術館で観る映画シリーズVol.29 「パラダイス・ナウ」

上映期間 平成19年3月10日（土）～4月27日（金）
19日間（平成19年3月31日までの上映日数）

パレスチナ暫定自治区のヨルダン川西岸地区の町、ナブルス。人々は貧困に苦しみ、幼馴染みのサイドとハーレドには、貧しい家族の生活を助けるためにできることは何もない。二人の生活にあるのは占領という事実だけだった。パレスチナの若者が自爆攻撃に向かう48時間の葛藤と友情を描いた問題作。



作品資料収集／作品収集実績

【収集の基本方針】

写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

【写真作品】

- 1 国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2 写真の発生から現代まで、写真史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3 歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品の発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4 東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5 日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。

【写真資料】

- 1 出版物（写真集、専門書、雑誌等）については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2 ネガフィルム等の類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3 ポスターなど、写真展の付属資料（図録、チケット等）を収集する。
- 4 その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

【写真器材類】

- 1 写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2 体験学習などの事業活動に必要なものを収集する。

【映像資料】

- 1 映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2 体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3 日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4 各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

平成18年度、東京都は新たな「東京都文化振興指針」を打ち出し、写真美術館の作品収集予算として4,000万円が計上された。平成11年度に収集予算がゼロになって以来のことである。写真

美術館はその間、作家からの寄贈・寄託、賛助会員からの協賛金の一部による購入によってコレクションの充実に努めてきた。新たに予算措置がされ、17人の重点収集作家の個展がほぼ開催されるか、その見通しがついたことに鑑み、今年度は昭和63年以来引き継がれた写真美術館の作品収集の基本方針に沿って、写真作品の収集について新たな指針を打ち出した。この指針においては、特に収集が手薄になっていた1990年代以降の若手・中堅の作品等を中心に、より体系的・国際的なコレクションの充実に努めることとした。平成18年11月14日には東京都写真美術館作品資料収蔵委員会が開催され、別表の作品資料を新たにコレクションに加えることが承認された。

【写真作品収集の新指針】

- 1 写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2 黎明期の写真のように、希少価値的な作品を積極的に収集する。
- 3 写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4 1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5 新進展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6 写真美術館の展覧会（自主展、収蔵展）で取り上げた作家作品を収集する。
- 7 基本方針【写真作品】5に基づく新規重点作家の設定
(1)日本を代表する作家であること
(2)国内外で評価が高いこと
(3)日本の写真の一分野を代表する作家であること
(4)国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
(5)現在おおそ40代、50代、60代の作家を目安にする
(6)収集にあたっては、現在の収集予算および市場の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
(7)重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8 新指針7に基づく新規重点作家（21人）
荒木経惟 石内都 オノデラユキ 北井一夫 北島敬三 小山穂太郎 佐藤時啓 篠山紀信 柴田敏雄 杉本博司 鈴木清 須田一政 高梨豊 田村彰英 畠山直哉 深瀬昌久 古屋誠一 宮本隆司 森村泰昌 やなぎみわ 山崎博

平成18年度収集点数：96点

【内訳】 国内写真作品 87点 海外写真作品 3点 映像作品資料 4点 写真資料 2点

写真美術館コレクション点数：23,423点

【内訳】 国内写真作品 15,400点 海外写真作品 5,053点
映像作品資料 2,177点 写真資料 793点

●作品収集実績

作家名	作品名	点数	収集方法	制作年	技法・サイズ
柴田敏雄	福島県相馬郡鹿島町1990他	4	購入	1990-1996	ゼラチン・シルバー・プリント
鈴木理策	シリーズ「海と山のあいだ」より	10	購入	2005	発色現像方式印画
やなぎみわ	シリーズ「寓話」より	6	購入	2004-2006	ゼラチン・シルバー・プリント
石内都	シリーズ「mother's」より	10	購入・寄贈	2002-2004	GSP 発色現像方式印画
森村泰昌	シリーズ「なにものかへのレクイエム」より	3	購入・寄贈	2006	GSP 発色現像方式印画
川内倫子	シリーズ「うたたね」より	8	購入	2001	発色現像方式印画
森山大道	「71NY」他より	15	購入	1972-2005	ゼラチン・シルバー・プリント
ユーセフ・カーシュ	Andy Wahol	1	購入	1979	ゼラチン・シルバー・プリント
ユーセフ・カーシュ	Alberto Giacometti	1	購入	1965	ゼラチン・シルバー・プリント
ロベール・ドアノー	Georges Braque	1	購入	1953	ゼラチン・シルバー・プリント
明和電機	ツクバジオラマ	1	購入	2002	映像作品
minim++	Tool's Life 道具の隠れた正体	1	購入	2002	映像作品
岩井俊雄	マシュマロ・スコープ	2	購入	2002	映像作品
北島敬三	「New York」ポートフォリオ	1 (270)	購入	1981-1988	ゼラチン・シルバー・プリント
中村征夫	「海中2万7000時間の旅」「日本列島海中百景色」より	30	購入	1996-2006	発色現像方式印画
(写真資料) 河野龍太郎	画龍留真譜	2	寄贈	1930-1960	アルバム ゼラチン・シルバー・プリント

プリントスタディールーム

写真美術館では、写真作品・資料の収集、展覧会等での展示・鑑賞をおこなっており、研究・鑑賞のために直接作品等を閲覧する特別閲覧（プリントスタディールーム）制度を設けている。

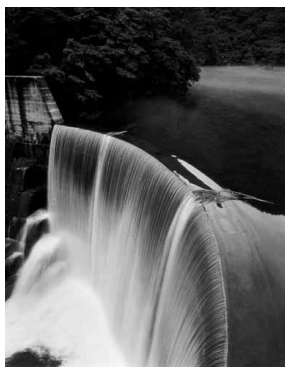
平成18年度収蔵作品の紹介

購入作品

●柴田敏雄



Grand Coulee Dam, Douglas, WA 1996
(#1885) 1996年



福島県相馬郡鹿島町1990 1990年

●鈴木理策



海と山のあいだ #10 2005年



海と山のあいだ #9 2005年



海と山のあいだ #14 2005年

●やなぎみわ



エレンディラⅡ 2006年



無題Ⅱ 2004年

●石内都



mother's #39 2002年



mother's #52 2003年



mother's #49 2002年

●森村泰昌



「なにものかへのレクイエム (VIETNAM WAR) 1968-1991」 1991/2006年



「なにものかへのレクイエム (MISHIMA) 1970.11.25-2006.4.6」 2006年



「薔薇刑の彼方へ (黒蜥蜴は脳天に宿る)」 2006年

●川内倫子



無題/うたたね110



無題/うたたね58



無題/うたたね59

●森山大道



Daido hysteric no.8 1997 1997年



'71-NY 1972年/2002年



ニューヨーク・シティ 1972年/2002年



新宿 2001-2002年/2005年



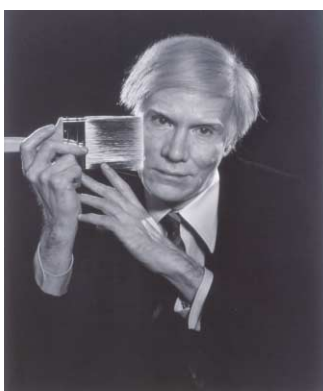
新宿 2001-2002年/2005年

●ロベール・ドアノー



ジョルジュ・ブラック 1953年

●ユーサフ・カーシュ



アンディ・ウォーホル 1979年



アルベルト・ジャコメッティ 1965年

●明和電機



つくばジオラマ 2002年



つくばジオラマ 2002年 展示風景より

●minim++

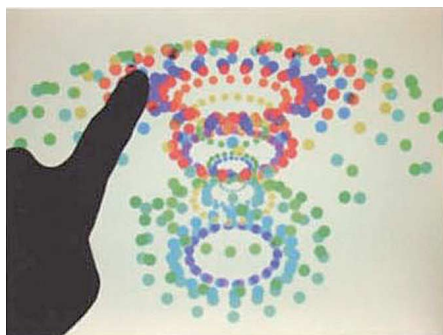


Tool's Life 道具の隠れた正体 2002年

●岩井俊雄



「マシュマロスコープ」 2002年 展示風景より



「Floating Music」 2002年 展示風景より

●中村征夫



砂紋の広がる風景、与那国島、沖縄県
2004年12月



水深30センチの世界、サイパン 2005年4月



メガネモチノウオ、紅海、
エジプト 1988年

●北島敬三



『NEW YORK』(1981~1988) より



『NEW YORK』(1981~1988) より



『NEW YORK』(1981~1988) より

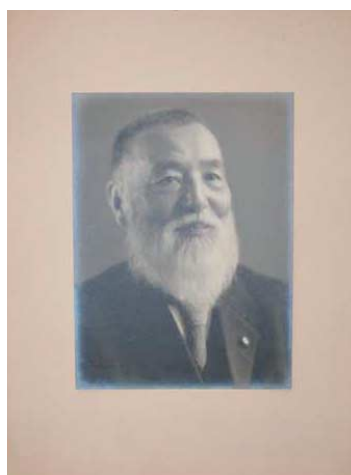
●河野龍太郎



「画龍留真譜」より 上村松園 撮影年不詳



「画龍留真譜」より 六代目尾上菊五郎
撮影年不詳



「画龍留真譜・ニコラベルシャイト篇」
より 男性像 撮影年不詳

調査研究

美術館事業のすべての土台は調査研究にある。国内外の写真史・映像史・美術史や写真論・映像論・美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロス・オーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウム等に反映させている。

【東京都写真美術館紀要No.6】

神保京子

「岡上淑子とコラージュの世界—日本のシュルレアリスムにおける活動と位置」

“The World of Collage: Toshiko Okanoue and Japanese Surrealism”

中村浩美

「開館10周年記念企画展としての新進作家展—その役割と課題」

藤村里美

「コラージュとフォトモンタージュ—写真黎明期のフォトモンタージュから日本の写真におけるコラージュの受容まで」

山口孝子

「紙製保存用写真包装材料の経年劣化による有機酸発生の検証」
(共同研究) 龍頭克典・柴史之・大川祐輔/東京都写真美術館・千葉大学大学院自然科学研究科

【学会発表等】

笠原美智子 シンポジウム「都市のクリエイティビティ」平成18年度日本デザイン学会秋季大会 秋葉原コンベンションホールA、2006年10月14日

笠原美智子 お茶の水女子大学ジェンダー研究のフロンティア「笠原美智子×鷹野隆大、対談 Dialogue on Sexuality / Body/ Photography」お茶の水女子大学 文教育学部1号館 1階 会議室、2006年7月8日

Kyoko Jimbo “Terra Incognita, Psychoanalysis and Sexuality in the Pacific Region” Elizabeth Murdock Theatre, The University of Melbourne, Hosted by the School of Art History, Cinema, Classics & Archaeology and the AHRC Research Centre for the Studies of Surrealism and its Legacies, 2006年9月2日

Tomoe Moriyama “Next Generation of digital art – current situation and student works in Japan,” Educators Program, ACMSIGGRAPH2006, Los Angeles Convention Hall, LA, 2006年8月3日

Tomoe Moriyama “‘Mission: Frontier’ – Next Generation of Space Art in Japan,” Space Art Track, ISDC06, 25th International Space Development Conference, Los Angeles Sheraton ball room A, LA, 2006年5月7日

山口孝子・川真田敏明・柴史之・大川祐輔 「写真画像の長期保存耐久性における燻蒸処理の影響」文化財保存修復学会第28回大会、国士舘大学、2006年6月2、3日

山口孝子・川真田敏明・柴史之・大川祐輔 「燻蒸処理による写真画像への影響と長期保存性」2006年度日本写真学会年次大会、千葉大学けやき会館、2006年6月3日

山口孝子 Photo Imaging Expo 2006 写真学会セミナー「東京都写真美術館におけるアーカイビング」日本写真学会、東京ビッグサイト6F「608会議室」、2007年3月23日

【論文発表等】

笠原美智子 「私の十選 現代セルフポートレート」『日本経済新聞』2006年9月12日、9月14日、9月15日、9月18日、9月19日、9月21日、9月25日、9月26日、9月28日、9月29日

笠原美智子 「展覧会と入館者数」『美術評論家連盟会報』第7号、美術評論家連盟2006、pp.12-14

笠原美智子 「指定管理者制度と美術館」『イメージ&ジェンダー』vol.7、イメージ&ジェンダー研究会、2007、pp.8-14

笠原美智子 「やなぎみわ作品に見る現代日本女性の意識」『日本の化粧文化 化粧と美意識』株式会社資生堂企業文化部・資生堂企業資料館、2007、pp.111-127

金子隆一 「不完全な写真」『Machael Kenna in Japan』RAM、2006、pp.1-2

金子隆一 「プラスアルファ」としてのカラー写真」『木村伊兵

衛のバリ』朝日新聞社、2006、pp.248-249

金子隆一 「書誌・解題」『日本写真史の至宝「光」』丹平写真倶楽部、2006、pp.3-5

神保京子 「写真術の誕生と耽美：ヴィルヘルム・フォン・グローデン、フレデリック・ホランド・デイ、ポストモータム・フォトグラフィ、イリナ・イオネスコ、川田喜久治「聖なる世界」、細江英公「薔薇刑」『yasoo夜想/ 特集#耽美』、ステュディオ・パラボリカ、2006年4月23日、pp.4-26

神保京子『名作写真館23 植田正治・緑川洋一 —The Photography Pavillion 写真を楽しむ、写真を語る(23) (ムック)』小学館、2006年

Kyoko Jimbo *Francesco Pignatelli: Reversed Renaissamce*, Flora Bigai *arte moderne e contemporanea*, Venice, 2006/ p.19, "Arte Incontro: In Libreria", Anno XV II, Numero 54, lugio-settembre 2006, Milan, p.7-13

Kyoko Jimbo Sakiko Nomura: *Nagi Czas/ Nude Time*, p.2-4, manggha Centre of Japanese Art & Technology, Krakow, 2006

丹羽晴美 「メディアは戦争をどう伝えたか」『DAYS JAPAN』第3巻第8号、株式会社デイズ・ジャパン、2006年8月号、pp.24-25

丹羽晴美 「デスティニー・ディーコン展に伴う現地調査とオーストラリアの現代作家調査」『2005年度 海外研修派遣報告集』、美術館連絡協議会、2006年5月、pp.23-32

Tomoe Moriyama "Curating Digital Media – Next Generation of Japanese Media Art & Exhibition," Proceeding of IVO6, Information Visualization, pp.664-670, IEEE Computer Society, London, 2006年7月5日

Tomoe Moriyama "Meta-visual/media/space – algorithmic 'intersection,' the new aspect of media art exhibition", Tomoe Moriyama, Theoretical Art Papers, SIGGRAPH2006 Electronic Art and Animation Catalogue, ACM SIGGRAPH, pp.156-159, Boston,

2006年8月23日

森山朋絵 「互動藝術作品を含む媒體藝術系展示に於ける展示支援手法」『2006 亞洲藝術科學學會論文集』第2号第1巻、上海、2006年6月22日、pp.339-344

山口孝子 「2005年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第69巻3号、(社)日本写真学会、2006、pp.162-163

我が国最初の写真の保存・修復に関する当研究室では、写真保存用包材、修復用材料などの写真適正試験をはじめ、各種写真の保存条件、展示照明条件などの最適化研究を行っている。また、画像劣化原因の排除、劣化画像の復元処理などを含めた保存科学全般にわたる調査研究を進めている。

1 今年度の研究内容

千葉大学との共同実験として、平成17年度は燻蒸処理によって生じる写真画像への影響と長期保存性に関する研究をおこない、平成18年度は以下の研究を引き続き共同で進めた。

長期保存でのゼラチンの変性の検証を目的とし、ゾルフラクション法によるゼラチンバインダーの劣化分解の検出の可能性を提案した。未硬膜、硬膜処理後のゼラチン膜および強制劣化を与えたゼラチン膜の溶出成分の検出から、ゼラチンが強制劣化過程で分解することが確認できた。この溶出成分量や分子量に着目することで、劣化の進行程度や特徴を把握できると考える。この実験結果については、平成19年度日本写真学会年次大会・インタラクティブセッションにて報告予定である。

2 教育・普及活動

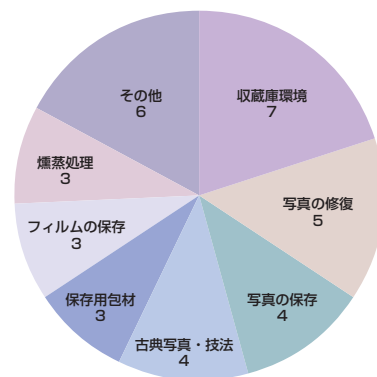
一般の方々に美術館の施設・舞台裏を紹介する写真美術館ガイドツアーは、平成17年度に引き続き開催された。当研究室内では、古典写真のサンプルを見せながら技法の解説および写真の保存方法等について概説した。

館内のみならず、外部からの写真保存に関する問い合わせに応じることも当研究室の重要な業務となっている。問い合わせ内容および件数を図1に示す。白黒・カラー写真やフィルムの保存方法のほかに、収蔵庫環境、修復や古典技法についての問い合わせが寄せられた。この事実は、写真が二次資料的扱いから見直されていることを示し、それと共に写真を収蔵している美術館や文書館などが、写真・フィルム・ガラス乾板の保存や保存環境の整備に着手し始めた結果であると考えられる。

また、毎年実施している博物館実習のカリキュラムの一部として、実習生に対し写真特性の解説、作品保存環境の見学、作品管理の実務指導を行なった。平成18年度は1年間（週2日）に渡るインターンシップを受け入れ、作品の保護処理や収蔵作品のコンディションレポートの作成を通して、写真技法や材料に応じた適切な保存方法を指導した。

さらに、スクールプログラム、博物館学、日本写真学会誌への執筆や日本写真学会セミナーを通じて、写真保存の普及・教育活動もおこなっている。

図1.問い合わせ内容および件数



3 収蔵作品の保存環境整備

過年度における当研究室の実験の結果、従来の輸入保存箱に使用されている糊や、透かし模様がある弱アルカリ性の間紙は、写真画像に及ぼす悪影響の可能性を示唆した。

その結果を踏まえ、平成15年度より行ってきた写真作品のJISK7617（写真包材の写真画像への影響度試験方法）に合格した国産品への交換は、ほぼ終了した。引き続き、映像作品において保存箱の交換を行っている。

購入・寄贈・寄託によって毎年収蔵庫へ新規作品が入庫する。新規収蔵作品の適切な収蔵処理、保存箱の作製は随時行っている。また、収蔵作品の保護処理、修復も継続している。平成18年度はダグレオタイプ3点にガラスの交換と周囲のシーリング処理をした。

また、収蔵庫・作業室・展示室の環境維持のため、29カ所に簡易計測紙を吊り下げ、毎月1回空気質のモニタリングを実施している。これは、コンクリートから放出するアルカリガス、あるいは木材等からの酸性ガスによる空気汚染をpH値で検討するためである。これによって、画像劣化原因になる有害ガスを放出する物質（塗料・糊・ダンボール等）の有無を確認する事が出来る。また、空調フィルター（酸性・アルカリ・有機酸除去）効果の持続を知る手立てにもなっている。

平成18年度は有機酸とアンモニアのみに反応する、簡易計測紙より正確なパッシブインジケータ®を使用し、空気環境の雰囲気測定して、ケミカルフィルタの構成を適正にした。

今年度は以下の収蔵作品に修復および保護処理をした。

● **Un bebe (資料番号20002957)**

ダゲレオタイプの保護ガラスとして使用されているソーダガラスに劣化が認められたため、ガラスの交換を行った。また、作品のフレーム解体に伴い、作品に密着する酸性紙マットを外し、新たに落とし込み中性紙マットを作製した。フレームの周辺テープは、背紙の色に合わせて彩色し貼り直した。

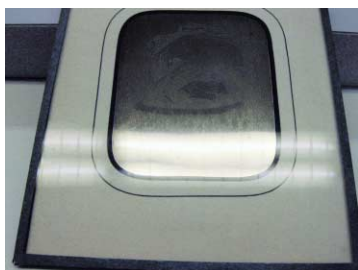
● **Une mere et son fils (資料番号20002962)**

保護ガラスのニスの補彩およびクリーニング、作品に密着している酸性厚紙の交換、周辺テープの貼り直しを行った。

● **View of Niagara Falls from prospect point (資料番号20100197)**

作品の状態は良好であったが、保護ガラスの内側に拭きムラおよびキズやブルーミングが認められたため、作品鑑賞の妨げになることから、フレームを解体してガラスの交換を行った。

● **Un bebe (ダゲレオタイプ)**



保護ガラスの内側からの液状

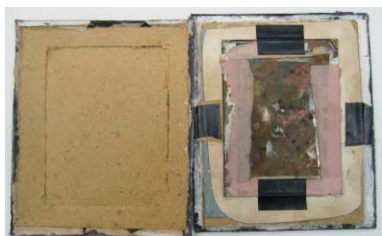


フレーム解体／背紙

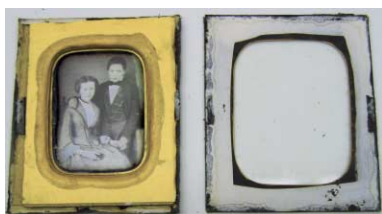


修復後

● **Une mere et son fils (ダゲレオタイプ)**



フレーム解体／背紙



左：紙のマット
右：ニスとカオリンが塗布されたガラス



修復後



図書室

写真・映像に関する専門図書室として、国内外で出版された写真集を中心に、評論、写真史・映像史、技法書、一般美術書、展覧会カタログ、専門雑誌、美術館ニュース、パンフレットなどの収集、整理、保存を行い、一般に公開している。なお、写真美術館の展覧会事前準備としての調査・研究に必要な資料・情報の提供をしている。

1 図書資料の収集

平成18年度受入冊数

	和書	洋書	和雑誌	洋雑誌	年間増加冊数
購入	101	45	0	18	164
寄贈	422	138	173	34	767
小計	523	183	173	52	931

蔵書総数 58,813冊

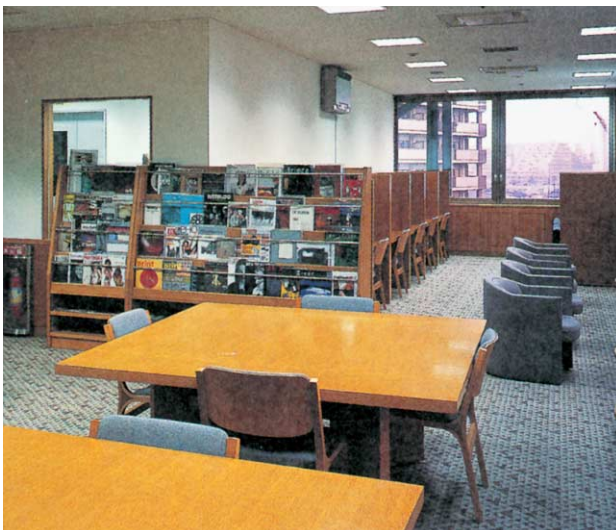
2 図書資料の整理

(1) 特別整理

平成18年度は、平成19年2月19日（月）、21日（水）～23日（金）、3月6日（火）～9日（金）の8日間に所蔵雑誌目録作成のための所蔵調査を行った。対象は和雑誌200タイトル、約8,000冊である。

(2) 図書資料保存対策

破損等のある図書資料の修復（外部委託）をすることによりその保全を図った。また、中性紙箱・保存用封筒等を活用し保存に努めた。



3 サービス業務

(1) 閲覧サービス

図書室は一般公開しているが、館外貸出は行っていない。資料は、閲覧室に設置したコンピューター2台で検索できるようにしてある。

平成17年4月14日（木）よりインターネット上で蔵書検索ができるようになり（図書のみ）、平成19年1月より美術図書館横断検索（Art Libraries' Consortium）へ参加した。また、「新着図書コーナー」、「展覧会関連図書コーナー」を設け継続的に展示を行っている。展覧会ごとの展示状況は下記のとおりである。

単位（冊）

展覧会名	図書	カタログ
デスティニー・ディーコン展関連：オーストラリアの写真家たち	11	25
キュレーターズ・チョイス	9	3
中村征夫写真展：海中2万7000時間の旅	12	1
石内都 mother's	17	1
コラージュとフォトモンタージュ展	17	16
球体写真二元論 細江英公の世界展	18	5
日本の新進作家「地球の旅人」展	5	0
“TOKYO” マグナムが撮った東京	24	6

(2) レファレンスサービス

写真、映像に関する図書資料についての質問および所蔵状況についての問い合わせに応じている。来室者からの問い合わせの他、電話、文書での問い合わせにも応じている。これらの質問についての回答のうち、今後のサービスに役立つものは、記録票を作成し、ファイルして活用している。

(3) 複写サービス

当室所蔵の資料について著作権の範囲内で複写サービスを行っている（モノクロのみ）。

4 平成18年度利用統計

月	開室日数	入室者数	出納冊数	レファレンス 件数	コピー枚数
4月	26	2,071	916	121	1,135
5月	27	2,517	1,232	186	1,003
6月	26	2,498	1,417	191	1,706
7月	26	2,764	1,059	167	1,423
8月	27	2,255	936	146	654
9月	26	2,144	1,000	157	1,177
10月	26	2,057	1,232	169	953
11月	26	2,053	1,045	126	1,381
12月	24	1,844	1,226	135	1,051
1月	23	2,075	1,199	151	810
2月	21	2,060	941	122	1,000
3月	23	2,167	1,091	116	649
合計	301	26,505	13,294	1,787	12,942
一日平均	——	88	44	6	43

5 その他

- (1) 他館展覧会への貸し出しは1件 1冊であった。
- (2) 図書室への見学は25件、取材は7件であった。
- (3) 博物館学実習の一環として実習生12名を受け入れた。
- (4) 職場体験実習として中学生2名を受け入れた。



「キュレーターズ・チョイス」関連展示



「カラージュとフォトモンタージュ展」関連展示